



学校だより

西寺尾第二小学校

7月

令和6年6月25日



皆で取り組めば きっとできる

校長 宮崎 里子

「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」神奈川県審査会に学校代表として参加した6年生のスピーチをご紹介します。(令和6年6月20日 神奈川公会堂にて)

「守っていこうぼくらの自然」

6年

ぼくは、自然や生き物に興味があります。

自然のことを調べていたら、無計画な森林伐採により、世界で一年間に470万ヘクタールもの自然が失われていることを知りました。この広さは、東京ドーム100万個分で、一日だと約2700個分になります。その影響で、森にいる生き物達が、すみかを追われたり、数を減らしたりしていることも分かりました。生き物が好きなぼくにとって、この現実を知れば知るほど悲しくなります。

四年生の時、宮城県で行われたサマーキャンプに参加しました。そこは、辺りはすべて森なのに、なぜここだけ開けているのだろう、なぜ森に入ると切られた木が倒れているのだろうと不思議に思いました。家に帰って調べてみると、30年前、リゾート開発に失敗した後、乱伐され放置された土地だったということが分かりました。

また、神奈川県内の里山体験に参加した時には、気候変動の影響か、エサを求めて人里におりてきてしまった鹿がわなにかかって暴れているのを見ました。このようなことが最近多いと聞きました。

小学生のぼくが行った先でもこのような環境問題を目のあたりにすることがあります。これが世界規模で起こっていると思うと恐ろしい気持ちになります。

世界の違法伐採の木材の多くは輸出用で、国際的な問題になっています。木材の多くを輸入にたよっている日本もこの問題に関係がないと言えません。そして、この影響で、今のペースで生き物が絶滅すると25年から30年後には地球上の全生物のうち四分の一が失われる計算となるそうです。これは大変なことです。

では、今の自分にできることはなんでしょう。

それは、世界の現状を知り行動に移すことだと思います。ぼくがやろうと思っているのは、認証機関で認定されたFSCマークがついた商品を買ったり、4R運動(Refuse・Reduce・Reuse・Recycle)を進めたりすることです。

ぼく一人ができることは小さなことかもしれませんが、取り組むことが大事だと思います。だれかが始めなければ変わっていくことはないと思います。もし、何も取り組まなかったら、ぼくたちは将来この地球にいられるのでしょうか。

皆で取り組めばきっとできるのだから・・・いつまでもいられる地球をみんなで作りませんか。

樹さんはよく通るしっかりとした声で、これまでの自分の体験に基づいたこのスピーチを堂々と披露し、とても嬉しく思いました。自分の気付きを自分のできる行動につなげようとするのがとても素晴らしいです。

また、「皆で取り組めばきっとできる」という経験は学校生活でも大切にしたいことの一つです。

今月は朝会で用務員2名の仕事の紹介とトイレの使い方について考える機会を設けました。学校全体としてトイレの様子で気になることが続いたからです。西村用務員からは「トイレが汚れていると、何よりみなさんの体調のことが気になります。おなかが痛くないか、下着は汚れていないか。困ったときは遠慮なく言ってください。」と温かい言葉をいただきました。もうお一人の河原用務員は着任して以来、トイレ入口壁面をペンキで明るく塗り替えることに取り組んでくれています。これから子どもたちのアイデアを募集して新しいトイレの看板をつくる計画を伝えてくれました。

一人ひとりがコミュニティで起こっていることを知り、自分ができることを考え、行動に移す、皆で取り組む。このような経験を小さいころから積み重ねていくことができるよう、私たち教職員一同励みます。